

スペイン国鉄から受注

ハドラス、環境対応コート剤

【千葉】ハドラスホールディングス（HD、東京都中央区、山本英明社長）は、スペイン国有鉄道のレンフェから鉄道車両向けガラスコーティング剤を受注した。同国では車



両への落書きが横行し、レンフェは落書きの除去と損傷回復に年間2500万円（約40億円）を費やしていると。そこで同剤を車両に塗布して落書きの塗膜付着を抑制する。今回の受注規模は最大18車両分だが、将来はレンフェが所有する10万車両分の受注も目指す。

スペインでは鉄道車両への落書きの塗膜を専用テープで除去し、落書きの付着を抑えつつ、専用テープで下地を守りながら落書きを簡単に除去できる。化学洗剤を使用しておらず、欧州の各種環境規制もクリアした。今回の受注金額は11万円（約1800万円）。

ハドラスHD商品の総代理店であるハドラスヨーロッパが納入する。同社はハドラスHDの提携先である現地Dの提携先である現地の医療関連会社が設立した。生産はハドラスHDと提携する企業のハンガリー工場で行う。今回の受注を足掛かりに公的機関や高速道路、商業施設などの落書き対策商品として拡販する。落書き対策からスタートし、遮熱などガラスコーティング剤の機能を最大限に訴求する。スペインを拠点に欧州市場などグローバルに展開し、2028年8月期までに海外売上高比率30%（24年8月期は数%）を目指す。

同社のガラスコーティング剤「ハドラス」は、ワーク（加工対象物）の表面にガラス膜を形成し、防汚や防水、防錆、防傷などを可能にする。空気抵抗を減らす効果も確認している。スマートフォンのスマートフォンや自動車、足場、スポーツ用品などで普及が進む。抗ウイルス・抗菌機能も付加でき、コロナ対策商品としても実績がある。